

2023年度 社会情報学演習 ゼミ概要

【情報コミュニケーションコース】

■ 辻ゼミ (辻 泉) ■

○テーマ：「ポピュラー文化とメディア」

辻ゼミは、文化とメディアをこよなく愛する精鋭たちの集うゼミです。人一倍、何か好きなものがある、メディアについて関心がある、そういった学生たちが、日常生活で、身近に楽しんでいるもの、接しているものを、あえて振り返って研究対象にして掘り下げていく、そんなゼミです。ですから対象は、アイドルでもアニメでもゲームでも、あるいはスマホでも SNS でも、なんでも構いません。

そして、ポピュラー文化とはとても楽しいものです。ですが、それを楽しんで終わらせてしまうのではなく、背景に存在する若者の自己やコミュニケーションの問題であったり、グローバル化といった社会変化と関連付けて理解することが重要でしょう。我々にとって身近で楽しい文化やメディアについて、それを大真面目な研究対象ととらえられる方々と一緒に、その実態を考えていきたいと思います。関心のある学生諸君をお待ちしています！

○活動予定内容：

卒業研究論文・卒業論文に向けた各自のオリジナル研究報告と、文化社会学やメディア論に関する文献の購読を行います。文献購読は、要約者とコメンテーターを分担し、複数の論点をゼミでディスカッションします。文献の例として、高野・飯田・加島編『現代文化への社会学』（北樹出版）、宮台監修、辻・岡部・伊藤編『オタク的想像力のリミット』（筑摩書房）、宮台・辻・岡井編『男らしさの快楽』（勁草書房）、馬場・池田編『「女子」の時代！』（青弓社）、土橋・南田・辻編『デジタルメディアの社会学』（北樹出版）などが挙げられます。これ以外に、2年生までに学習した社会調査の方法を復習する回も設け、オリジナル研究に役立ててもらっています。

年度末にはゼミ論文集を刊行しており、それ以外にも、コロナ禍以前は、夏には合宿やBBQ、季節ごとにもコンパを行って親睦を深めていましたので、これらの行事の早期復活をゼミ生ともども心待ちにしています。また、3年生を中心とする毎年恒例の個別進路面談も、今年からようやく復活できそうです。

ゼミ生たちの仲がいいのも特徴的で、卒業してからも時々ゼミに先輩たちが遊びに来てくれます。新聞社や出版社といったメディア業界だけでなく、広告、不動産、銀行、流通、あるいは公務員といった様々な職場で活躍中の先輩たちは、いわゆるOBOG訪問の時だけでなく、これからの社会で活躍する学生諸君にとっても心強い存在といえるでしょう。年に2～3回、ゼミの時間を使って、これらの先輩方をお招きし「人生と就活と卒論を考える会」を実施しており、活発に議論が交わされる人気行事となっています。

○卒論・卒業研究論文：

本ゼミでは、卒業研究論文の分量については2万字以上を、卒業論文は4万字以上を原則とします。卒業論文に果敢に挑む、ヤル気のある学生を歓迎します。

○その他：

ときどきゼミの様子を、ツイッター（ゼミ公式アカウント：@TsujiLab、個人アカウント：@izumi2z、）でもつぶやいています。ハッシュタグ「#中大辻泉ゼミ」でも検索してみてください。

■ 松田ゼミ (松田 美佐) ■

<ゼミ内容>

現代社会のありかたをメディアやコミュニケーションを軸として探ることを、本ゼミは目的としています。身近な人間関係や趣味・興味関心はもちろん、広く社会問題や社会の仕組みに関する事など、研究テーマは何でも構いません。自分が興味を持つことを、ゼミのメンバーと一緒に学問的に考えていきます。

大学で身につけるべきは、自分で問いを見つけ、答えを出す力です。

メディアやコミュニケーションという身近な軸を使いながら現代社会を研究対象とすることで、その力を楽しく身につけましょう。

そのために、ゼミでは研究手法や調査手法をもう一度復習し、メンバーで議論して研究テーマを掘り下げること、卒業論文もしくは卒業課題研究を大学4年間の集大成として執筆する準備をします。

2年間の大学生活を経て、研究テーマがなんとなく見えてきた人もそうでない人もいますかと思いますが、どちらにも対応しますが、後者だという人はゼミが始まるまでに集中的に探しましょう。アイデアは探さないと見つかりません！とはいえ、自分の日常生活の中で探することができるのが、社会情報学のよいところです。

なお、メディア関連の社会の変化にはそろそろついて行けなくなってきた教員に、いろんなことを教えてくれることも期待しています。教員ともゼミのほかのメンバーとも一緒に学び、教え合い、悩み、考えていきましょう。

<活動予定>

各人が研究テーマを発見したり、深化させたりするために、メディアやコミュニケーションと現代社会に関する文献講読をしつつ、調査研究のための方法論（アンケート、インタビュー、観察、ドキュメント分析など）を復習します。また、それぞれの論文執筆に向けた研究報告（4年は卒業論文・卒業課題研究、3年はゼミ論）を並行して行います。

3,4年とも個人面談をゼミ時間外におこなうほか、ゼミコンパや夏合宿をおこなう予定です（状況次第ですが）。

学年末には、3年生はゼミ論（10,000字以上）、4年生は卒業論文(卒業課題研究)の要約をゼミ論集としてまとめ刊行します。

<卒業論文・卒業研究論文>

本ゼミでは卒業論文執筆を強く推奨します。卒業論文を執筆しない学生の卒業課題研究は20,000字以上を原則とします。

■ 安野ゼミ (安野 智子) ■

○テーマ：「社会調査で人間の行動を探る」

このゼミでは、人間の判断や行動を、「データに基づいて」実証的に解き明かしていくことを目標としています。

担当教員の専門分野は、世論・世論調査・社会心理学ですが、研究テーマは個人の自由です。過去の卒論のテーマは、友人関係、消費者行動、趣味(音楽、ゲーム、K-POPなど)、就職とキャリア、農業と地域振興、スポーツ、SNS、就活、結婚、食生活など、多岐にわたります。

たとえば、ソーシャルメディアにはまる人とそれほどでもない人はどう違うのでしょうか？それはなぜでしょうか？ソーシャルメディアで孤独感は和らぐのでしょうか？それとも他人と比較して落ち込んでしまうのでしょうか？こうした疑問を、実際に調査を行い、データ分析の結果をもとに考えていきます。

テーマによっては、(公開されているデータの)二次分析、簡単な実験、インタビューによる卒論も推奨しています。

調査票を設計し、たくさんの人の意見を聞けるのは楽しいことです。統計分析は、最初は少し大変かもしれませんが、根気強く取り組めば、とても強力な道具にもなります。社会調査や質問紙の設計、統計分析などのスキルを身に着ければ、マーケティングやマスコミ・公共の調査などを始め、社会でもさまざまな場面で活用できます。(ただし慣れるまで、少々忍耐と努力は必要です。)いわゆるアンケート調査をしなくても、購買データや人口統計など、データ分析の対象は幅広いのも魅力です。それ以上に、自分の疑問がデータで解き明かされたときのうれしさは格別です。ぜひ一緒に味わいましょう！

○活動予定：

2023年度の授業は次の3つの方針で進めます。

(1) 前期は社会心理学に関する文献を購読し、ディスカッションを行います。2022年度はカーネマン著『ファスト&スロー』(早川書房)、2021年度はチャルディーニ著『影響力の武器 第3版』(誠信書房)を読みました。

あわせて、個別指導とグループディスカッションを併用し、各自のテーマに基づいて論文・レポートの執筆を進めます。

(2) 後期は、3年生・4年生ともに、研究テーマが近い人同士でグループを作り、調査などのデータを集め、分析を行って論文を完成させます。

統計分析の基礎、ソフトウェアの使い方、分析結果の読み取りなどは、授業や補習などでサポートしていきますので、得意でなくてもまったく問題はありませんが、「データサイエンス演習(初級・中級)」の授業を履修しておくくとスムーズです。また、関心がある方は、全学の「AI・データサイエンス」関連授業もぜひ受講してください。

例年、夏休みにはゼミ合宿を実施し、親睦を深めていましたが、2020年度以降、コロナ禍で実施できておりません。2023年度はぜひ復活させたいです。

○卒論・卒業研究論文：

本ゼミでは、卒業論文は2万字以上、卒業研究論文は1万字以上の分量を条件とします。卒業論文は必修ではありませんが、執筆を強く推奨します。年度末には毎年ゼミ論集を刊行しています。(CD版か冊子版かはみなさんと相談して決めます。)

■ 細貝ゼミ (細貝 亮) ■

本ゼミでは、社会現象や人間行動を実証的に記述・説明する方法を学び、それをもとに論文を執筆することを目的とします。研究テーマは、メディアやコミュニケーション、社会意識に関するものとします。分析手法としては、アンケート分析、内容分析(テキスト分析)、インタビュー分析など想定しています。データの特徴を理解し、適切な手法を用いて、社会現象を分析する力を養います。

講義は、①文献輪読、②グループワークによるデータ分析とプレゼン、③個人研究の発表と論文執筆、を組み合わせ実施する予定です。ゼミ生の興味によって内容や進行は変わってきます。分析手法は補講などで適宜サポートしますが、数量データを扱うのであれば、クロス表、相関、回帰、仮説検定を習得しているとスムーズです。手法については他講義で受講済み、あるいはゼミと並行して受講することをお勧めします。

ゼミは、教員からのアドバイス以上に、ゼミ生同士から得られる知的刺激が重要です。ゼミ生が互いに学び合いながら研究を進められることが、ゼミの最大の意義であることを理解し、意欲的に講義に臨む学生を歓迎します。

以上

■ 浅岡ゼミ (浅岡 隆裕) ■

本ゼミでは、メディアやコミュニケーションが介在することで生起する現象を社会学、メディア理論ほかの概念装置を援用して、自らの視点によって分析します。その社会的メカニズムを説明することの面白さ・奥深さを経験してもらいます。目標はメディア&文化分析の技法の習得にあります。とくに、分析の道具としての様々な社会調査(インタビュー、アンケート、ドキュメント(メッセージ)分析、観察等)それぞれの特性を踏まえ、いずれかを選択・実施し、実証的な研究をしていきます。

前期に文献・資料を講読する中で“研究する”ことのイメージを共有し、後期には全員で相談してゼミ共通テーマを設けて、それぞれのグループの調査研究活動を通じて、テーマについて総合的に解き明かしていきます。

ここ数年の共通テーマは、「令和元年の若者たち」(2019)「個人化と多様化の時代」(2020)、「デジタルネイティブ世代の行動と現実感覚」(2021)と展開してきました。22年度は、個人のプレゼンによりグループ分けした①コミュニケーション・ネット上でのつながり、②広告・CM・消費行動、③動画利用・サブスク、④レトロ・エモい文化などから、「若者(Z世代)のアイデンティティ」について考察を進めています。

本学を卒業し、広告会社でのキャリア(企業のコミュニケーション戦略立案とマーケティングリサーチ業務)を持ち、現在、複数地域での魅力発信プロジェクトに携わっている教員が2年間指導します。ゼミ受講者が執筆・編集した研究成果報告書(=ゼミ論文集)創刊~15号は、社会情報学研究室(3号館4階)で閲覧可能です。画像もふんだんに取り入れたゼミ1年間の記録も掲載されておりますので、受講希望者はぜひご覧ください。

4年生には卒業論文、あるいは卒業研究論文に取り組んでいただきます。

■ 塚田ゼミ (塚田 修一) ■

○テーマ 都市×文化×メディア

本ゼミでは主に担当教員の専門である①都市空間と文化、②文化とメディア・コミュニケーションがカバーする（あるいは重なる）領域を扱います。2021年度は、「渋谷」のフィールド調査を行い、2022年度はYouTuberやVTuberなど「(広義の) 配信文化」を考察しています。

身の回りの様々な現象を真剣に面白がれる学生、またフィールドワークに積極的に取り組む意欲のある学生を歓迎いたします。

なお、担当教員の専門分野については、『国道16号線スタディーズ』（青弓社）や『アイドル論の教科書』（青弓社）などを読んでみてください。

○活動予定内容

ゼミ生の興味関心に合わせて、①各自の研究テーマに関連する文献購読およびメディアテキスト（映画やテレビドラマなど）の分析実践と、②フィールドワークの二本を柱に、①と②を往復しながら活動していきます。

そのうえで、4年生は卒業論文・卒業研究論文の執筆を、3年生は合同ゼミでの発表およびゼミ論文の執筆を進めてもらいます。学年末には、ゼミ論集を刊行します。

夏休みには他大学との合同ゼミを実施し、主に3年生が研究テーマについてプレゼンを行います（2022年の夏休みには、駒沢女子大学・日本女子大学・慶應大学・相模女子大学との合同ゼミを行いました）。希望があれば、4年生向けに卒論・卒業論文構想を検討する企画も行います。また、折に触れ、フィールドワークやフィールドトリップを企画します。

○卒論・卒業研究論文

本ゼミでは、卒業論文・卒業研究論文とも20000字以上を原則とします。卒業論文は必修ではありませんが、執筆を強く推奨します。執筆に際しては、担当教員が最大限にサポートします。

【図書館情報学コース】

■ 小山ゼミ (小山 憲司) ■

テーマ：「図書館を科学する」

このゼミでは、情報社会における図書館を主な研究対象として、多様な観点から図書館を「科学」します。図書館と一口に言っても、幅広いです。私の研究関心は大学図書館で、最近では大学図書館の利用者である研究者の利用動向を研究しています。が、みなさんには、みなさん自身の興味関心があるはずです。新型コロナウイルスと図書館の対応という事例をとってみても、換気など図書館環境の整備、紙の書籍のデリバリー、電子書籍の提供、休館の是非など、さまざまな論点があります。そうした論点を整理し深めていくことで、あらたな研究のシーズ（種）が見えてきます。また、ゼミメンバーとのディスカッションは、さらにあらたな視点と知見をもたらしてくれるに違いありません。このゼミをそうした活発な議論、活動の場に、みなさん自身で育ててもらえたらと思います。

活動内容・進めかた：

前期は、4年生は卒論のテーマ決定および発表を、3年生はグループワークを通じて、研究の方法を学ぶとともに、ゼミ論のテーマを検討します。夏休みのゼミ合宿では、各自が研究テーマについて報告し、ディスカッションします。後期は、卒論・ゼミ論の報告を中心に進めます。このほか、希望に応じて、図書館見学など学外での活動も考えています。

卒論・ゼミ論など：

卒論は必修ではありませんが、本ゼミを選んだ4年生にはぜひ卒論に取り組んでもらいたいと思います。また、3年生はゼミ論を執筆し、ゼミ論文集としてまとめます。いずれも個別に面談し、相談しながら進めていきます。

■ 常川ゼミ (常川 真央) ■

○ テーマ：「オープンデータと情報システム」

常川ゼミでは図書館情報学の知見を学びながら、皆さんが関心のある社会課題を研究として取り組んでいただきます。研究の方法については学生一人一人と話し合いながら進めていきますが、主に次のようなパターンを推奨しています。

- (1) **オープンデータの分析** - ウェブ上で公開されているデータを分析して社会の動向を明らかにします
- (2) **ソフトウェアの開発** - 社会課題を解決するためのウェブサービスやソフトウェアを開発します
- (3) **既存の情報システムの評価** - 図書館ウェブサイトやデジタルアーカイブなど、既存のシステムを比較評価します

○ ゼミの進め方

常川ゼミでは3年生から4年生までの2年間で4つのフェーズに区切っています。

- **フェーズ1：研究の基礎 (1年目春学期)**
情報システムに関する研究テーマや方法論について解説します。
- **フェーズ2：情報システム研究の演習 (1年目秋学期)**
オープンデータを活用して、簡単なウェブサービスを作る演習を実施します。その成果をゼミ論文としてまとめてもらいます。
- **フェーズ3：研究調査 (2年目春学期)**
自身が設定したテーマに沿って、研究に取り組んでもらいます。
- **フェーズ4：論文執筆 (2年目春学期)**
フェーズ3で取り組んだ研究の成果を論文としてまとめてもらいます。

○ 卒論・卒業課題論文

卒業論文は2万字以上、卒業課題論文は1万字以上の文量を条件とします。卒業論文は必修ではありませんが、可能な限り執筆をするように求めます。

■ 桑田ゼミ (桑田 てるみ) ■

・テーマ：「アクティブ・ラーニングで考える最先端の図書館」

急速に変化する社会に求められる最先端の図書館について考察したいと考えています。常に新しい情報を得るだけでなく、自分で行動し考えるアクティブな学びを行います。私自身は、新しい社会に対応して変化し始めた最先端の学校図書館について研究していますが、ゼミでは、皆さんの興味関心を大切に育てます。学校図書館はもちろんのこと、公共図書館、大学図書館など館種を問わず、様々な角度や論点から、最先端の図書館活動に関する考察を広げたいと考えています。

・ゼミの進めかた：

前期は全員がアクティブに取り組むテーマを設定します。過去には、「学校図書館改造プロジェクト」を立ち上げ、実際に図書館改造などを手がけたり、その結果を図書館総合展での発表をしたり、さまざまな活動を行いました。2023年度は、「最先端の図書館」をキーワードにしつつ、具体的には受講者と相談しながらテーマを決めます。夏休みにはゼミ合宿で研究と交流を深め、後期には、卒業論文、ゼミ論文の執筆を本格化させる予定です。

・卒論・ゼミ論など：

4年生は原則として卒業論文に取り組みます。3年生はゼミ論文として、卒業論文で取り組むテーマに関する研究ノートの執筆に取り組みます。執筆は、個別相談をしながら進めていくことになります。